

小学校における学習指導と生徒指導の一体化を実現する授業づくり

有本 真秀子 (教育実践コース)

1 研究の目的

筆者の授業の課題は、教師の授業プランとその遂行を優先し、児童の思考の流れを十分に考慮できていないことである。実習校の教師の授業から発話記録を作成し、教授行動を分析した結果、授業において学習指導と生徒指導の一体化がなされていることに気づいた。本研究では、学習指導と生徒指導の一体化を実現する授業の要件を明らかにすることを旨とする。

2 学習指導と生徒指導の一体化

(1) 授業における生徒指導

生徒指導提要(2010)では、授業における生徒指導は次の二つの側面から行うよう述べられている。

一つは、各教科等における学習活動が成立するために、一人一人の児童生徒が落ち着いた雰囲気の下で学習に取り組めるよう、基本的な学習態度の在り方等についての指導を行うこと。もう一つは、各教科等の学習において、一人一人の児童生徒が、そのねらいの達成に向けて意欲的に学習に取り組めるよう、一人一人を生かした創意工夫ある指導を行うこと。「平成22年度版生徒指導提要(2010)」より一部抜粋

さらに、新潟市生徒指導ガイドブックにも次のように記されている。

授業において学習指導と生徒指導の一体化がなされていることで、児童は各教科の学習内容に加えて、学び方がわかる。学級においては学習基盤や生活基盤が構築される。「新潟市生徒指導ガイドブック(2014)」より一部抜粋

生徒指導の視点をもって学習指導を行うことが重要なのである。

(2) 生徒指導の4つの視点

学習指導と生徒指導の一体化を実現した授業を行うためには、生徒指導の4つの視点を意識して授業を行うことが重要である(新潟市生徒指導ガイドブック, 2014)。

＜生徒指導の4つの視点＞
 ①目的意識をもたせているか
 ②自己決定をさせているか
 ③それぞれの児童の個性能力を發揮させ、認めているか
 ④協同性を發揮させているか

さらに、新潟市授業づくりリーフレット(2016)では、この4つの視点を各教科等の授業で取り入れる際の具体例が示されている。

生徒指導の4つの視点	具体例

目的意識	課題を明確にし、課題解決の意欲を高める。わかったことやできるようになったことを明らかにして、学びの過程を振り返る場を設定する。
自己決定	課題に対する自分の考えを明確にさせ、自分なりに判断することを大切にす。他児の考えを基に自分の考えを強化・修正する。
個性能力	個の興味・関心、能力に応じた教材、学習場面を工夫する。一人一人の考えや表現を意図的・計画的に生かす。
協同性	他者と協力して課題を解決する場を設定し、他者と積極的に意見を交流・検討させる。かわりあって解決したことよさを自覚させる。

新潟市が示している生徒指導の4つの視点を活用して授業づくりを行うことは、学習指導と生徒指導の一体化を実現した授業を行う上で有効な手法となりそうである。

3 学習指導と生徒指導の一体化の視点からの教授行動分析

(1) 目的

授業観察を通して、学習指導と生徒指導の一体化を実現するための教師の具体的な働きかけを抽出する。

(2) 方法

① 研究協力者

実習校の6年2組(A教諭)と1年2組(B教諭)を対象とした。

② 手続き

2021年1月(第6学年道徳科)と2月(第1学年算数科)に授業動画を撮影し、教授行動や児童の姿を記録した。その後、それぞれの教師に教授行動の意図についてインタビューを行った。

(3) 結果

① 児童への望ましい行動の価値づけ

以下は教科書を黙読する場面の発話記録である。

C1: 読んだら?
 T1: はい、数えます。1, 2, 終わったね。3, 4, 6, 7, ありがとう。8, ありがとう。9, 10, 11, 12。
 —中略—
 T2: 読めた人?
 C2: (挙手)
 T3: ありがとう。
 T4: ナイス。今6人。早くまりましたね。
 C3: (挙手)
 T5: 7人, 8人, 9人。いいですね、早く読めるのは素晴らしいことだね。
 C4: (挙手)
 T6: はい10人。あと7人きたら次にいきます。
 —中略—

T7:あと2人です。一生懸命読んでいる人いいですね。
Cさんいいよ。15。
C5:はい(挙手)。
T8:16。ちゃんと読んでいるなあ。

児童の望ましい行動を価値づけることは、他児にも同様の行動を促す契機となる。

② 児童のつぶやきを大切にした教師の受容的な言動

以下は、登場人物の気持ちを想像する場面の発話記録である。

T1:他にもこんな気持ちかなって想像ができる人?
T2:みんな悲しい?
C1:え、いや、え。
T3:どうぞDさん。
C2:なんか、なんていうんだろう。
T4:なんていうの、うん。教えて。
C3:そんな悲しいわけじゃないけど、
T5:うん。
C4:ちょっと悲しいぐらいかな。
—中略—
C5:いや、あれじゃない?あの一。
T6:どうぞEさん。
C6:なんだっけ。あの一。なんか弟、あ一。えっと一。
T7:うん。いいよ。
C7:うーんと、いやでも、出てないからわからない。
T8:わからないよね。
C8:え、なんか、弟の夢がもし、
T9:うん。
C9:司書だったら、
T10:うん。
C10:なんか嬉しい。

教師の受容的な言動が児童の発言を促している。児童一人一人の考えを引き出そうとする教師の姿勢がその背景にある。

③ 他者の考えに対する共感を促す働きかけ

以下は、登場人物の気持ちを想像する場面の発話記録である。

T1:Fさんは悲しいって言っていたけどその気持ちわかる人?
C2:はい。
T3:他にもこんな気持ちかなって想像ができる人?
—中略—
C3:おじいちゃんが、頑張っていこうと、
T4:あ、これだ。頑張っていこうとするやつだ。
T5:Gさんもこれに近い?
C4:(うなずき)
T6:なるほど。今言ったことに近いなあと思っている人?
C5:(挙手)

他者の考えに対する共感を促す働きかけは、発言した児童以外の児童の考えの表出に繋がる。

④ 個別支援的な声かけ

以下は、授業の導入において問題文に対応する図を描く場面の発話記録である。

T1:図、描ける?Hさん。昨日やってないよね?
C2:うん。
T2:Iさん、Hさんがわからなかったら教えてあげられる?昨日、お勉強してないの。
C3:あ、そっか!
T3:うんうん、保健室行っていたの。図の描き方教えてあげられる?
C4:まずは丸書いて、、、
—中略—
T4:昨日こういう描いたの覚えている?(ノートを指さしながら)
C5:うん。

T5:これ、図で描けるかな?
C6:うん。(図を描き始める)
—中略—
T6:あ、図描けたね。
C7:うん。
T7:そしたら近くの人と同じか確認してみたら?Jさんと同じかな?
C8:(確認し合う)

教師の個別支援的な声かけが児童の授業参加を促している。活動に取り掛かることができていない児童に対して意図的な声かけを行うことで、児童の授業参加を促そうとする教師の姿勢がその背景にある。

②, ③の教授行動は、新潟市が示している生徒指導の4つの視点のうちの個性能力と協同性の発揮を具現するための働きかけといえる。

4 学習指導と生徒指導の一体化を実現する授業づくり

教授行動分析から得た視点を取り入れ、学習指導と生徒指導の一体化の実現を目指して実践を行った。

(1) 第2学年算数科「大きい数のたし算とひき算」(2021年6月実施)

① 授業の概要

本時のねらいとあわせて、学習面と生徒指導面の双方の視点から目指す児童の姿を設定した。

本時のねらい	2回繰り下がりのある(3位数)-(2位数)の計算について、ブロック図で考えることを通して計算方法を理解し、筆算ができる。
本時で目指す児童の姿	・繰り下がりが1回の計算と2回の計算のしかたの違いに気づくことによって問いをもち、ブロック図を使いながら2回繰り下がりがあがる場合の計算方法を考え、自分の考えを伝えようとしている姿。 ・自分の考えた計算方法との異同に着目しながら他児の考えを聞き、それぞれの考えのよさを見つけようとしている姿。
抽出児	学力は中位で、他者とのかわりはあるが挙手による発言は少ない男児(発話記録下線)。

② 講じた手立て

目指す児童の姿を生み出すために、新潟市が示している生徒指導の4つの視点と関連づけて手立てを構想した。

	手立て	手立ての意図	生徒指導の4つの視点
1	個数を空欄にした問題を提示する	既習と本時の学習内容の違いを顕在化させ、課題解決の意欲を高める。	目的意識 自己決定
2	計算の可否を○×で問う	×と答えた児童の困り感を全体で共有し、課題解決の意欲を高める。	自己決定 目的意識
3	考えを可視化させる	具体をもとにした対話的な学びを促す。	個性能力 自己決定
4	自信度を問う	自他の異同に着目しながら考えを聞き、よさを見つけさせる。	協同性

③ 授業の分析と考察(下線は抽出児)

以下は、前時と同じ場面設定を用いて繰り下がりが1回の計算となる数字(「43」と繰り下がりが2回の計算となる数字(「86」)を提示した場面の発話記録である(手立て1)。

T1: 問題文だからいつものように式、筆算、答え、書けそうですか?
 C1: はい。
 C2: え、書けない。
 T2: え、なんでなんで?
 C3: だって□だから。
 T3: じゃあ□が43だったら。
 C4: あー!
 —中略—
 T4: じゃあ今、□が43だったけど、□が86だったらどうなる?

以下は、繰り下がりが2回ある計算の可否を○×で問うた場面の発話記録である(手立て2)。

T1: できそうだと思う人は○、難しそうだと思う人は×を書きましょう。
 —中略—
 T2: ×の人の気持ちわかる?
 C1: さっきより数が多い。さっきと比べて一の位が大きいから心配なんだよ。
 C2: さっきは一の位が、引かれる数が多かったけど、こっちは引く数のほうが多い。
 C3: 前習ったのは十の位から1、10もらって、それで十の位が1になって引けないから。
 T3: なになになに、先生言葉だけだとわからなかったから、それ付け加えられたりする? どういうことだろう? どこが難しいと思うんだろう?
 C4: 前習ったのはここに10をかりて、
 T4: ちょっと待ってちょっと待って。やり方じゃなくてどこが難しいと思うか教えてほしいな。
 C5: 1-8はできない。
 T5: つまり、十の位も計算できないってこと?
 C6: どっちもできない。
 T6: じゃあ今日は、一の位と十の位が引けない時はどうやって計算すればいいかなという課題で勉強します。

手立て1, 2により、既習と本時の学習内容の違いが顕在化され、課題解決の意欲を高めることができた。

以下は、ブロック図のワークシートを用いて計算方法を表す場面の発話記録である(手立て3)。

T1: 自分がどういう風に計算するかをそのワークシートに表してみてください。
 C1: どうやってやればいいかわからない。
 —中略—
 C2: え、ちょっと待って。
 C3: わかった。こことここをこうやってこことここでこうやる。(ワークシート上で指を動かしながら)
 C4: あー! すごいことか! (ワークシートに自分の考えを書き始める)
 —中略—
 C5: え、どういうこと? 最初から39にした。
 C6: 100を10の位に動かして、10を一個こつちにも動かして計算するんだよ。
 C7: (自分のワークシートに考えを追加する)
 C8: ねえこう?
 C9: これをこつちに動かしたの?
 C10: そうだよ。
 C11: どうやって?
 C12: こうだよね?
 C13: うーん。順番が違うんじゃない?
 C14: あー! すごいことか! (考えを書きかえる)
 C15: Iもさっき同じことやってた。
 C16: こうでしょ?
 C17: だから9書いて。それで11でしょ?
 C18: (自分のワークシートに考えを追加する)

—中略—
 T2: みんなが書けたって手を挙げられるようにしたいから、ヒント聞きに行ってもいいから立って聞いて動いてごらん。
 C19: (他児のもとに行き、ワークシートを並べて他児の考えを確認し、自分の考えを共有する。)
 C20: (自分の席に戻り、前の席の児童に向けて) ねえねえねえ、100-80=20 じゃん? それで6-5すれば答え出るよね?

手立て3により、児童は課題に対する自分の考えを自覚することができ、他児の考えと比較しながら対話的に学ぶことが可能となった。他児との対話を通じて自分の考えを強化・修正する姿が捉えられた。

本実践を通して、学習指導と生徒指導の一体化を実現する授業の具体的な方策がいくつか明確になってきた。その一方で、学習指導と生徒指導の一体化が実現したかどうかや学習面と生徒指導面の2つのねらいに児童が到達したかどうかを評価する方法については課題が残った。

(2) 第2学年算数科「かけ算のきまりを見つけよう」(2021年11月実施)

① 授業の概要

本時のねらい	7の段の九九について、学級全体で繰り返し唱えたり他児と協力しながら唱えたりする活動を通して、7の段の九九を唱えることができる。
本時で目指す児童の姿	・7の段の九九を唱えられるようになるという本時のめあてをもち、その達成に向けて学習活動に取り組む姿。 ・7の段の九九を唱える活動において、他児と協力することのよさを感じる姿。
抽出児	他児とのかわりが多くみられる児童(★)と他児とのかわりが多くはない児童(◆) (発話記録下線)。

② 講じた手立て

	手立て	手立ての意図	生徒指導の4つの視点
1	6の段と7の段の九九を続けて唱えさせる	既習と本時の学習内容の違いを顕在化させ、課題解決の意欲を高める。	目的意識
2	4種類の九九表を配布する	児童が自分のレベルに合ったものを選択しながら学習できるようにする。	自己決定 個性能力
3	九九を唱える活動を多様に提供する	それぞれの児童に合わせた学び方を提供し、九九の習得につなげる(全体→個人へ)。	個性能力
4	九九ビンゴを用いる	九九を順序関係なく唱えられるようにする。九九を他児と教え合いながら活動に取り組む児童の姿を生み出す。	協同性

③ 分析と考察(下線は抽出児★◆)

以下は、6の段と7の段の九九を続けて唱える場面の発話記録である(手立て1)。

T1: じゃあこれほどかな?(7の段の九九表を提示)
 C1★: 四一が4。(7の段と音が似ている4の段と混乱)
 C2: 四二が8。
 C3★: え? え?

T2：戸惑ったね。
 C4◆：(九九表を取り出して確認しようとする)
 T3：今、え？っていう声が聞こえてきたけど、Kさんなん
 だろう？
 C5：習ってない。
 C6◆：うん、言い方は習ってない。
 C7★：九九は習ってない。九九はよくわからない。
 T4：(「7の段の九九を言えるようになろう」というめあ
 てを提示)
 C8★：(うなずき)

既習の九九の段は唱えられるが本時の学習内容
 である7の段の九九は上手く唱えられないことを
 顕在化させたことにより、多くの児童が7の段の
 九九を言えるようになるという目的意識をもつこ
 とができた(振り返り①の結果より)。

以下は、4段階のステップが設定されている4
 種類の九九表を配布し、様々な順番や方法で九九
 を唱える場面の発話記録である(手立て2)。

T1：先生の後に続いて言ってください。七一が7。
 C1：七一が7。【九九表使用児童数(5/27名)】
 C2◆：(九九表③を見ながら唱える)
 —中略—
 T2：今度は立って、後ろにいる先生の方を見ながら言っ
 てみようか。後ろだから、今配ってある自分の九九
 表を見ながらでもいいから言ってみよう。
 C3：七一が7。【九九表使用児童数(13/27名)】
 C4◆：(九九表①を見ながら唱える)
 —中略—
 T3：次は隣同士で交互に言ってみましょう。
 C5：七一が7。【九九表使用児童数(19/27名)】
 T4：早く終わった人は自分で練習していきましょう。
 C6★：もう一回練習しよう。
 C7：七一が7。【九九表使用児童数(15/27名)】
 C8★：(間違えた時に正しい九九を九九表から探す姿)

抽出児◆の九九表の使用の変化(C2, C4)や様々な
 場面での九九表使用児童数の変化から、多くの児
 童が九九表の使用を自己選択しながら学習する姿
 が捉えられた。それぞれの児童のレベルに合った
 ものを提供することは、児童が自己選択しながら
 学習することに繋がった。

九九を唱える活動を多様に提供すること(手立て
 3)は、児童が自分に合う学び方で学習することに
 繋がり(振り返り④の結果より)、学習の習得にも繋が
 った(振り返り②③の結果より)。

以下は、九九ビンゴを隣同士で行っている場面
 の発話記録である(手立て4)。

C1★：じゃあ七三？
 C2：うーん。
 C3★：七三？21だよ。
 C4：21。
 C5：七五45。
 C6★：七五35。

九九ビンゴにより、多くの児童が7の段の九九
 を順序関係なく唱えることができたり、7の段の
 九九を他児と教え合いながら活動に取り組むこと
 ができたりした(振り返り⑤の結果より)。児童が他児
 と協力しながら活動に取り組むためには、ペアで
 の活動が有効であることがわかった。

5 学習指導と生徒指導の一体化を実現する授業 づくりの要件

実践を通して得られた学習指導と生徒指導の一
 体化を実現する授業の要件は次のようにまとめら
 れる。

(1) 目指す児童の姿の構想

学習面と生徒指導面の双方の視点から目指す児
 童の姿を具体的に構想することで、本時のねらい
 がより明確となり、それを具現するための具体的
 な手立てを構想する前提となる。

(2) 目指す児童の姿を具現するための手立ての 構想

構想した目指す児童の姿を具現するための手立
 てを新潟市の生徒指導の4つの視点と関連づけて
 構想する。次の3つの手立てが有効である。

- ①既習と本時の学習内容の違いの顕在化
- ②考えの可視化
- ③多様な学習活動の提供

①既習と本時の学習内容の違いの顕在化

既習と本時の学習内容の違いを顕在化させるこ
 とによって問いを生み、課題解決の意欲を高める
 ことができる。

②考えの可視化

思考内容は目に見えないが、考えを可視化させ
 ることによって、児童は自身の考えを自覚するこ
 とができ、他児の考えと比較しながら対話的に学
 ぶことが可能となる。

③多様な学習活動の提供

一人一人の学びの進度や特性を踏まえた多様な
 学習活動を提供することで、児童は自分に合った
 学び方を自己選択しながら学習に向かい、自分の
 個性や能力を発揮することができる。

6 今後の展望

大学院での検討は、単発の実践や低学年算数科
 での実践の範囲に限られていた。今後は、研究で
 得られた学習指導と生徒指導の一体化を実現する
 授業の要件を引き続き活用しながら日々の授業づ
 くりを行っていく。また、学級担任としてより長
 期的な見通しをもって授業づくりを行っていきた
 い。そして、授業の中での児童理解に努めるとと
 もに日々の授業での学びが学級経営や児童の人間
 形成にも繋がるよう、指導法を見つめ直し、授業
 改善に取り組みたい。

【引用文献】

- (1)新潟市教育委員会「新潟市の授業づくりリーフレット」(2016)
- (2)新潟市教育委員会「新潟市の生徒指導ガイドブック」(2014)
- (3)文部科学省「平成22年度版生徒指導提要」(2010)